

様式第二号の九（第八条の四の六関係）

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和3年 5月 日

愛知県知事殿

届出者

住所 大阪市中央区南船場1-18-11

氏名 大日本塗料株式会社

取締役社長 里 隆幸

委任 小牧工場長 山口 貴司

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0568-72-4141

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、2020年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	大日本塗料株式会社
事業場の所在地	小牧市大字三ツ渕字西之門878
事業の種類	16 化学工業
産業廃棄物処理計画における 計画期間	令和2年4月1日～令和3年3月31まで

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	3,248 t	全処理委託量	472 t
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	優良認定処理業者への 処理委託量	446 t
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	再生利用業者への 処理委託量	62 t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	2,775 t	認定熱回収業者への 処理委託量	88 t
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
※事務処理欄			

(日本工業規格 A列4番)

### (産業廃棄物の種類 : 廃油)

### (産業廃棄物の種類：廃油)

量物償有

量發生等物質不要

排量	(1)	146
----	-----	-----

項目	実績値
①排出量	146
②+③自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
⑨自ら埋立処分又は海上洋投投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	146
⑪優良認定処理業者への処理委託量	121
⑫再生利用業者への処理委託量	20
⑬熱回収認定業者への処理委託量	101
⑭熱回収を行う業者への処理委託量	0

自ら直接  
再生利用した量  
**(2)**

自ら直接埋立処分又は  
海洋投入処分した量

```

graph TD
    A[④ 中間処理した量] --- B[⑤ ④のうち熱回収を行った量]

```

The diagram illustrates a hierarchical relationship. The top box contains the Japanese phrase "中間処理した量" (amount treated intermediate), preceded by the number ④. An arrow points from this box down to a larger bottom box, which contains the Japanese phrase "④のうち熱回収を行った量" (amount treated intermediate, specifically heat recovery), preceded by the number ⑤.

自ら中間処理した後  
再生利用した量

自ら中間処理した後  
自ら埋立処分又は  
海洋投入処分した量

直接及び自ら  
中間処理した後の  
処理委託量

⑩のうち優良認定  
処理業者への  
処理委託量

(第2面)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：汚泥)

有 債 物 量
① 排 出 量 2593

不 用 物 等 発 生 量
② 自ら直接 再生利用した量

自ら直接 再生利用した量 は 海洋投入処分した量
③

自ら中間処理した後 再生利用した量
----------------------

自ら中間処理 した量
---------------

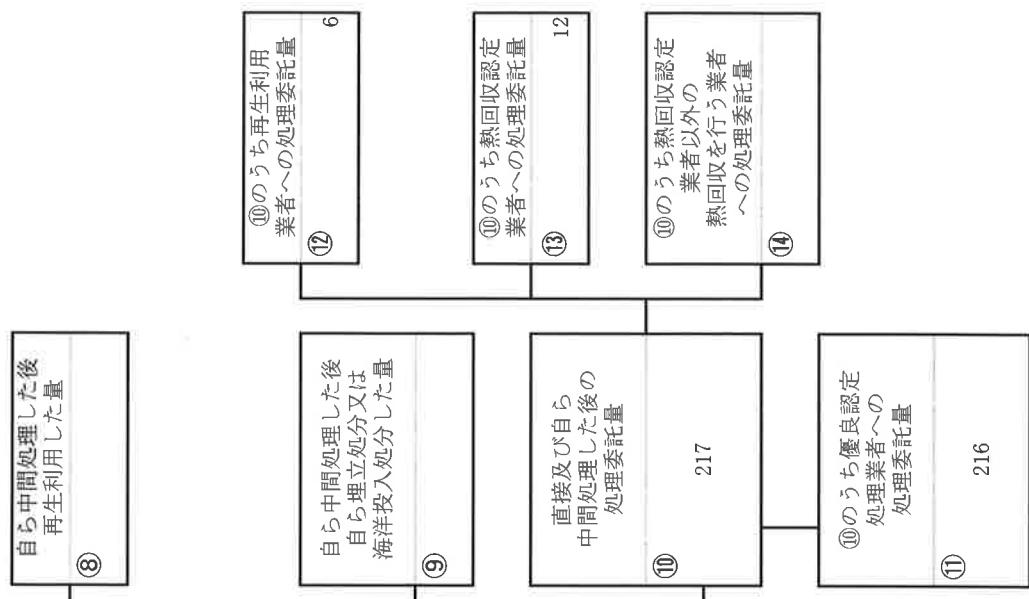
自ら中間処理 した量 は 海洋投入処分した量
---------------------------------

自ら中間処理 した量 は 海洋投入処分した量
---------------------------------

自ら中間処理した 後の残さ量
-------------------

自ら中間処理した 後の残さ量
-------------------

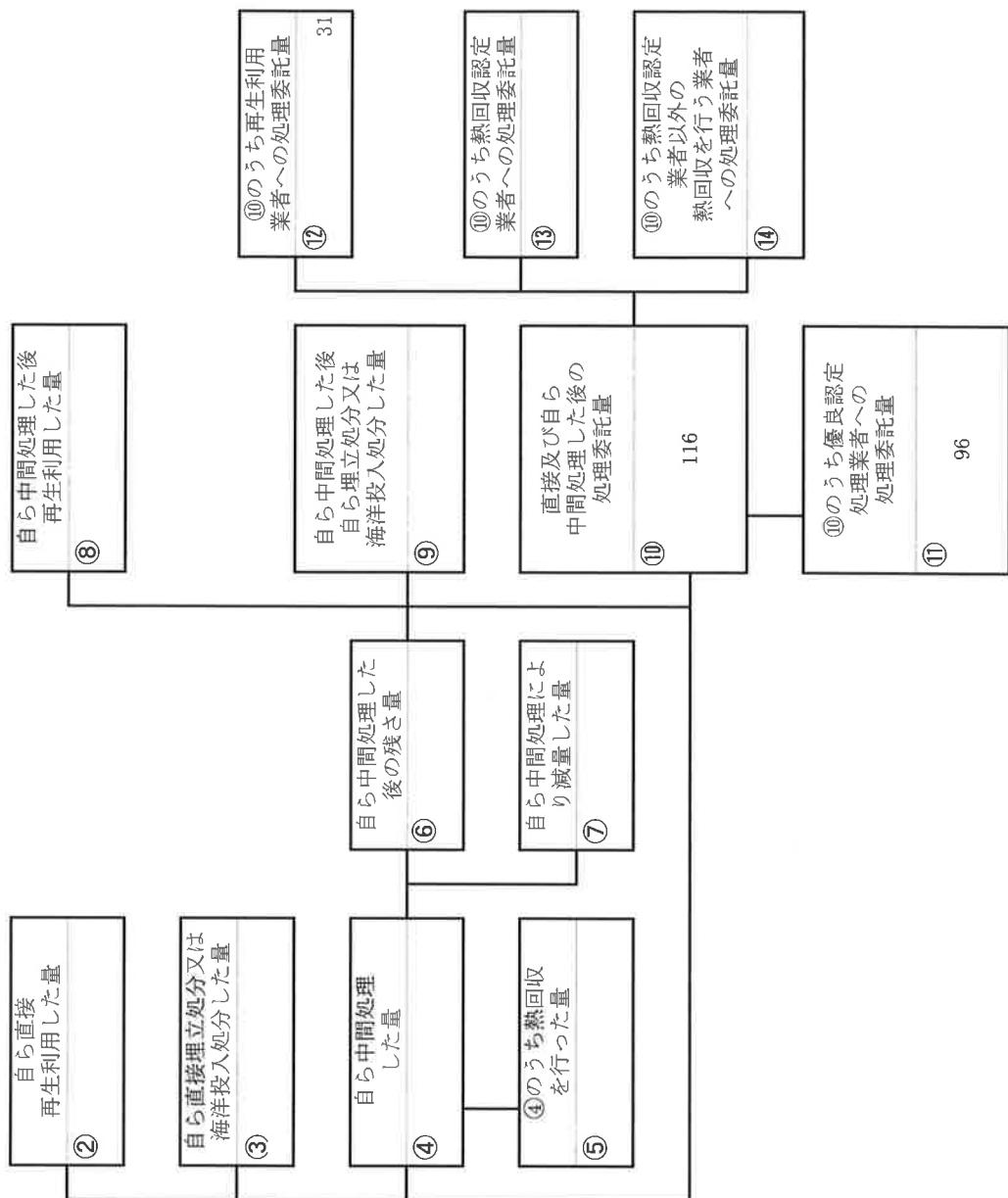
項目	実績値
①排出量	2,593
②⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	2,376
③⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	217
⑪優良認定処理業者への処理委託量	216
⑫再生利用業者への処理委託量	6
⑬熱回収認定業者への処理委託量	12
⑭熱回収を行う業者への処理委託量	0



### 計画の実施状況

## (産業廃棄物の種類: 廃プラ)

有償物量		排出量		実績値	
項目	発生量	(1)	116	(1)	116
①排出量		116		①	116
②+⑧自ら再生利用を行った量		0		②	0
⑤自ら熱回収を行った量		0		⑤	0
⑦自ら中間処理により減量した量		0		⑦	0
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量		0		③	0
⑩全処理委託量		116		⑩	116
⑪優良認定業者への処理委託量		96		⑪	96
⑫再生利用業者への処理委託量		31		⑫	31
⑬熱回収認定業者への処理委託量		0		⑬	0
⑭熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0		⑭	0



(第2面)

## 備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
  - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
  - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
  - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
  - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
  - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
  - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
  - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
  - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
  - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
  - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
  - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
  - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
  - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
  - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。